

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームサンハイツ青山
(ユニット名)	4丁目
所在地 (県・市町村名)	長崎県長崎市青山町2番36号
記入者名 (管理者)	江口 美穂 (管理者 三岳 美喜)
記入日	平成19年11月17日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所当時に職員全員で話し合い決めた理念がある。 お年寄りの[自分らしい]暮らしを支援します。 地域の商店街で買い物をするなど、暮らしが地域に密着するよう に支援します。 知識を深め、専門性を高めてケアの向上に努めます。	もっと理念の具体化を図るために、まず職員への意識化を図りたい。(例えばユニットごとに掲示し、必ず1回は目を通すなど)
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が理念を把握しており、その人らしさを引き出し、地域の商店街やスーパーでの買い物をご利用者と一緒に行い、認知症ケアについての専門性を高めるため日々研修等にも積極的に参加している。	理念の具体化に向けてどう取り組んだか、毎月1回振り返る。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	現状では、職員だけが目に付く場所にしか掲示しておらず、ご家族や地域の人々への理解・浸透に欠けている。	○ 面会時などいつでも観覧できるように見える場所に掲示する。 地域の方々へ理解して頂けるよう、玄関入り口に掲示する。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設の近くにはベンチを設置し、一休み又その時に気軽に会話ができるような環境を作りや外出時には必ずこちらから笑顔で挨拶をするように心がけており、顔なじみの関係を作ろうと努めている。	○ 地域の方が、気軽に立ち寄って頂ける様な明るい空間作りを行い、玄関を開放して入り口に1ヵ月のGH内の行事を掲示する。(療音・レクの内容etc)
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り、地域の夏祭りや清掃活動に積極的に参加し、地域の方との関係を大切にしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	老人会が行っている、地域の公園掃除の負担を軽減できればと、週に1回ご利用者と一緒に掃除に出掛けている。	○	地域の方々に呼びかけて、介護予防や認知症予防など学習会を開く予定である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価で上がった改善点を施設内で話し合うことで、原因を追求し、今後の対応や課題を明確にし、ご利用者に対する対応、ケアの質を高めていける様に努めている。意義の理解のために、自己評価は職員全員で行っている。さらに外部評価後は職員全員での話し合いの機会を設けている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ひまわり通信の配布。ご利用者の日常の様子をスライドで上映したり、GH内での状況説明も行い、アドバイスをいただき、向上に活かしている。		管理者・リーダーだけでなく、他の職員も参加することで、より地域の声を反映できる。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	何かわからないことがある時は、電話ですみせず、できるだけ顔を見てお話しするように心がけた。今年は福祉事務所の方と蜜に連絡を取る機会があり、グループホームの実践も見に来てくださり大変嬉しかった。	○	今のところ、連携には至っていない。こちらの一方的な働きかけであるが、これを続けていくことから何か生まれてくるのでは思っている。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在地域福祉権利擁護事業を活用されている方が1名、成年後見制度を活用されている方が1名。しかし管理者だけが対応しているため他の職員たちはあまり理解していない。	○	実際には利用者があるわけだから、機会あるごとに職員に説明をし、スムーズな支援に繋がるようにしていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者個人を尊重し、自由に生活して頂いている為、虐待はないと思うが、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を作れていないのが現状である。		研修会など職員全体が学べる機会を設けていきたい。虐待が行われないように、厳重に注意していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間をとって丁寧に説明している。管理者が行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>取り立てて時間や場所を設定してはいないが、利用者は非常に自由で、意見や苦情をよく伝えて下さる。その場合は可能な限り反映させている。むしろ表現が困難な方の意見の反映に努めようとしている。</p>	<p>認知症のため、表現が困難な方の意見をどう引き出し、読み取っていくか、課題である。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族が来所時には、必ず日常生活の様子、健康状態、金銭管理、職員異動について伝えている。何か困った事や、ご本人に変わった事があった場合には電話で伝えるようにしている。又1ヶ月に1回近況報告の手紙を出している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見・不満・苦情があった時には、その都度聞ける機会を作り、改善に努めているが、職員・外部者へ言い出す事ができないご家族もいるかもしれない。</p>	<p>○ ご家族が気軽に意見できる様な意見箱などのボックスを設置する。家族会やアンケートの実施。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1回のユニット会議、2週間に1回の事例検討、随時のリーダー会議、毎日の朝の申し送り、1年2回の個人面接などを使って意見や提案を聞く工夫をしている。昼休みもできるだけ一緒に過ごし様々な意見を聞いている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者やリーダーが中心になって、利用者や家族のニーズ変化に対応できるよう話し合いを確保している。また、病院受診・デイサービスの送迎など休憩時間や勤務時間の調整をしてしている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの関係がある職員の存在が今とても重要である利用者もいる。離職や異動で仕方ない場合は、できるだけ猶予期間を設け、スムーズな引継ぎができるよう皆で考えて実行している。</p>	<p>利用者にとって・・を最優先に異動を考える。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修が受けられるよう案内を掲示したり回覧している。又国家試験の受験に対応できるよう施設内で問題集を作成し受験者はそれを解くことで力をつけている。		新人育成のカリキュラムをしっかりと立て直す。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市認知症グループホーム協議会に加盟し、理事として、また企画委員会として積極的に交流を行い、研修や企画に参加したりサービスの質の向上のため取り組みをしている。		事例発表など特に力を入れて取り組んでいく予定である。また、近隣のグループホームなどは、バザーなど共に取り組んでいく予定である。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間・場所は確実に確保されている。月に一回の会議で問題点などを話し不満などをためないようにしている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人面接を行い、意見交換ができています。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	信頼していただき、何を言いたいのか、何を求めているのか等気軽に話して頂ける様な雰囲気作りに努めているが、全ご利用者が話せているのか、そしてそれを確実に受け止められているのかは評価しにくい。	○	ご自分より話をされない方に対しての関わりを増やし、ご本人の様子から気持ちをくみ取っていききたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	特別な機会などはないが、来所時にはゆっくりと話をして受け止めるように努めている。 通信欄には近況を報告し安心して貰えるように連絡・報告を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時には、必要としているサービスを見極めて提供するように努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	GHの雰囲気徐々に馴染んで頂ける様に、ご家族の方と話をしながら、昼間だけの利用から開始し、他の利用者や職員に慣れてからの利用となるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事(食器拭き・洗濯物たたみ・料理)や娯楽・買い物やドライブを共にし、喜怒哀楽を共有している。個人を尊重し、判らない事はご利用者に教えて頂きながら、助け合い・支えあう関係を築いていけるように努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の思いを念頭に置き、家族が来訪された時には日頃の状態を伝えている。ご本人らしさが引き出せる様なケアを行なっていける様に、ご家族と会話をし、アドバイスを頂きながら共に支えていけるよう努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご利用者とご家族の関係を職員全体で把握し、安心して利用して頂ける様、来訪して頂いた時には日頃の様子を伝えて情報の共有を行なっている。また、ご家族からの要望等も聞き、関係がよりより方向に行くように、ケアに努めている。		
30	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用がこれまで築いてきた人生の歴史を知り、日々の会話の中で、馴染の人や場所など聞き逃さず、外出の機会には出かけたりしている。(教会・自宅・昔働いていた病院など)ご本人の思いを、共に大切にしようとして努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士の関係を把握し、テーブルの席の配置や外出時の車の配置など気をつけている。また、関係が上手くいかない方の所には、職員が仲介に入り孤立しないように努めている。ご利用者同士の会話中は、そっと見守りご利用者同志の関係も大切にしようとしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても、ホーム内での行事がある時などは、参加していただけないかと手紙や電話などでお伝えしている。今後の付き合いも大切にしていこうと努めている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人と話し、その方の願いや希望などの把握に努めている。しかし、業務上本人本位なケアが出来ていない時もある。		フリー勤務の体制があり、ご利用者一人ひとりと関わる時間が増やし、本人本位のケアに努めようとしている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使い、これまでの生活などの把握に努めている。又日々の会話や生活の中で馴染みの暮らし方などその方らしい暮らしを知ろうとご家族にお話を聞いたりもしている。	○	入所前のサービス利用の経過など詳しくわからない部分は、ご家族とを話し、またこれまでの記録を読み熟知する。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの日々の生活習慣や有する力などセンター方式を使って把握に努めている。心身状態については一日の水分量の把握に努め日々の様子観察を行い行動なども把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員間で月に2度、事例検討を行い意見などを反映した介護計画を作成しているが、チームではなく職員間だけの話し合いしか出来ていない。		ご利用者の担当者会議を定期的に行なえるようにしていきたい。(本人・家族・ケアマネ・担当職員など)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度のモニタリングが間に合わない事があるが、日々の変化に伴い、その都度モニタリングを行い、必要なときにはプランを作り直したりしている。		3ヶ月に一度のモニタリングを徹底し、変化が生じた場合にはその都度モニタリングを継続して行なっていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の変化や、気づき等は必ず記録に残し情報の共有化に努め、介護計画の見直しにも役立てている。しかし、ケアプランにそった記録が行なわれていない時もある。		ケアプランには必ず、目を通してサインをするようにした。また、ケース記録にはさみ、いつでも見れるようにしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	共用デイサービスの方が配食サービスを利用したり、空きベッドを利用してショートステイなども行なっている。また、デイサービスの方と交流を持つようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近くの保育園との交流・地域の中学生が実習に来てくれたりしている。また、警察にもご家族の了承していただき、無断外出可能性ありの方の写真などの情報を出して協力して頂いている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ヘルパー・配食サービスを利用して24時間安心して生活出来るように支援している。デイサービスと連携し、囲碁の達人と対戦させて頂いている。		地域の公民館講座や他事業所の利用を考えている。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター・ご家族・ケアマネジャーが相談しながら、連絡を取り合い、共用デイサービスが行なわれるようになった。		地域支援ネットワーク会議を開催し、参加する予定。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	身体に変化があった場合には、ご家族とご本人の希望を大切に、かかりつけ病院とも相談しながら、他の医療機関への受診や往診等も行なえる様にしている。協力病院の往診も行なわれているが、かかりつけだった病院を希望される場合は希望に添える様にしている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の中には、認知症に詳しい医師の診断を仰ぎ、普段の様子・気になっている事を明確に伝えて、必要な時には相談にのって頂きながら、協力しながら支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が配置されており、日常の様子やちょっとした変化に気づいた時には相談しアドバイス頂きながら、日々の健康管理や病院活用等に生かしている。		看護職はもっと認知症について学び、介護職はもっと高齢者の医療的知識をつかみ、より協力しあいたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	安心して病院で過ごして頂ける様、入院した場合は病院に面会に行き、行った時には担当の医師や看護師に様子などを伺ったりして、情報交換に努めている。		入院した場合早期退院を中々スムーズに行えない。(病院側)今後、連携を密にして行く為、病院との話し合いの場所を密に設けて行きたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応にかかる指針」があり、医師・ご家族全員に説明をして同意を得ている。また、ご家族・かかりつけ医師・職員とで繰り返し話し合いを行い、方針を共有している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期ケア時の事業所として出来ること・出来ないことを管理者と一緒に見極め、かかりつけ病院の協力を得ながら、1つのチームとしてその方の支援に努めている。1名の方の看取りを行なった。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ダメージ防止に努めようとしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>常に人生の先輩であることを念頭におき、言葉使いやプライバシーを損ねないように努めている。記録物などの、取り扱いにも十分配慮を行い、放置せずに元あった場所に戻している。</p>	<p>どんな時でも、ご利用者のペースに合わせての行動・言葉かけを行なえる様に、努めている。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>ご本人の話をゆっくりと聞き、判る力に合わせて判りやすいように説明している。何事に対しても、意思決定が出来るようなルール作りに努めている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのペースを大切にしたいと考えているが、職員側の都合によって、ご本人の希望に添えてない場合がゼロではない。(例えば、職員が朝一人しか居ないで、出て行きたい方がいらっしまった時)</p>	<p>繁忙時にも、出来る限りご利用者に目を向けて優先順位やその方のペースにあわせ、職員優先ゼロを目標としている。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ご利用者が望む、美容室にいけるように努めているが、ホームの近くがなじみの美容室に変わっている現状もある。</p>	<p>なじみが変わってしまったご利用者に対して、ホームの近くの美容室をなじみにすることは今後も継続して行なっていく。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ご利用者の好みを把握し、苦手なメニューの時には個別に他のメニュー対応を行なったりしている。また、季節のものを取り入れ季節感を感じて頂いている。料理の手伝いや、食事の後片付けなども手伝って頂き、ご利用者と一緒に行なっている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>おやつをご利用者と一緒に作ったり、お酒を飲む方・コーヒーを飲む方など、一人ひとりの嗜好に合わせて日常的に楽しめる様にしているが、職員が決めてしまう事も無きにも非ず。</p>	<p>本人の希望を出してもらえそうな会話技術を身に付けて行くためには、何度も挑戦していくしかない。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自立されている方が多く、オムツはほとんど使用していない。排泄パターンの把握が難しく、皆さんの習慣を把握できていない。		自立で分かりにくくあるが、排泄間隔の把握に努め、排便チェックだけでも行うようにする。(特に、周辺症状が何日か置きに出てくる方)失敗される方には、歩行訓練を行い下肢筋力アップに努める。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間は限られているが、自由入浴としていつでも入れる体制を整えて一人ひとりのご利用者の希望を聞いている。		今後、夜間入浴なども検討していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	出来る限り、その方の状況や習慣にあわせて心地良く休息できる様に、ソファを設置したりフロアで休んでいる方には、毛布をかけたり室温にも配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割分担など出来ており(ゴミ捨て・茶碗洗い・洗濯物たたみ・新聞とり)楽しみごととして、皆さんと一緒にちょっとしたゆとりの中で雰囲気に合わせてよく遊んでいる。(体操・漢字の読み・ことわざ・じゃんけんゲーム・ぬりえ・計算など)		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さを十分理解しており、外出し何かを購入する時には、その方に合わせて、お手伝いしながら個人のお金を使える様にしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりとの会話の中でどこに行きたいのかを聞き、希望があった所に応じられる様にしている。全員揃っての外出や個人の希望による外出なども行っている。地域散策・散歩・買い物など一日一回は戸外に出かけられるように支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日曜日を外出の日と決め、出来るだけご利用者の皆さんと季節に応じた場所へ出掛けられる機会を作っているが、企画を前もって立てることが少なく、ご家族の参加はまだ実施できていない。		外出の企画を立てお手紙や来訪時日程をお伝えし、参加して頂ける機会を増やしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を使える様に、ご利用者の手の届く場所に設置しており、いつでもかけたい時にかけている。また、季節に応じて年賀状や暑中見舞い等も出している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつ来られても心地よく過ごして頂く為、フローア・エレベーター付近・トイレ・居室などの掃除を行い、環境整備を行なっている。また、面会があった時には、必ず笑顔で挨拶をし、お茶などを出す時にはご本人の日常の様子などをお伝えし、居室などでゆっくり過ごして頂けるように努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	十分理解しており、行っていない。		スピーチロックを行わない為、職員間の連携を密に行い自由な外出など出来るように努める。禁句「座って下さい」「ちょっと待ってて」「どこにいくんですか？」
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	理解しており、自由に出入り出来るようにしている。鍵をかけないケアに努めている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人ひとりの居室に入る時には、声をかけやノックをし了承を得て入るようにしている。また、職員全体でご利用者の様子・所在場所などを把握し、目配り・気配りを行なっている。夜間も1～2時間おきに巡回を実施している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物を無くすのではなく、一定の決められた場所に保管している。危険だからと扱わないという事ではなく、職員が必ずそばに居て、その方その方に応じて見守り・言葉かけを行なっている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のため、薬の管理方法などは決め事を作りそれに沿っておこなっている。実際に事故があった場合の直後には、勉強会などを実施している。		今後も、継続して勉強会などを行なっていきたい。また、誤薬についても事故防止の為、2重・3重のチェックを確実にこなしていく。ひやりはっとの取り組みを強化する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時に備えて、研修会に参加したり病院主催の講習会に参加している。		いざという時に、慌てないように実技ありの研修に定期的に参加していきたい。研修日程も一日ではなく2・3日同じ事を行い、全職員が参加できるようにしていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、日中・夜間を想定した火災訓練を全館合同でおこなっている。また、地域の自治会長さんや、老人会会長さんも参加して下さっている。		火災時における訓練は行なっているが、地震・水害などの災害事も考え、どのような対応を取るべきか話し合いを行なう機会を設けていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族の面会時には、日頃の様子や行動・身体の状態など詳しく説明を行い、ご家族に様子などを把握して頂いている。リスクがあるからさせないのではなく、予測して見守りご本人を尊重したケアに努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	何か体調の変化や異変に気付いた時にはバイタルを測定を行ったり、他職員との連携を取りながら、管理者・看護師に報告している。また、かかりつけ病院にもすぐに連絡を取り情報を共有し、対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的や副作用などについて、把握しようと努めているが完全に把握できていない。服薬は必ず行なって頂ける様に飲み残しや飲み忘れがないかなど、見守り確認を行なっている。		完全に近づける様に、副作用・量・目的など継続して学んでいくと共に、目的に沿って症状が改善されているかなど理解できるように努めていく。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	理解している。予防対策として、水分摂取量の把握を行いお茶以外の飲み物も常時用意しておき、飲み物に応じてオリゴ糖なども使用している。食事に関しては、食物繊維の野菜を使用したり乳製品も提供している。ラジオ体操や散歩などにも力を入れて行きたい。		ラジオ体操だけにとられず、5分でも体操を行なって頂ける様に職員は体操を考え行なっていく。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝・夕は歯磨きを行なって頂き、夕食後には毎日ポリドントにつけている。本人が歯磨きをおこなった後、再度口腔ケアを行なったりしている。しかし、毎食後の入れ歯の手入れや歯磨きが出来ていない。歯磨きをしたがらない人は、うがいだけとなってしまっている。		毎食後うがいを行なって頂く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日献立表を確認しながら、栄養のバランスを考えながら献立を考えている。水分チェック表を利用して一日の総量を把握し水分が少ない方には、器や好みを変化させたりと工夫している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ご利用者・職員共にインフルエンザの予防接種を受けている。衛生面に関しては、十分配慮を行なっている。毎日の塩素系での床の拭き掃除もおこなっている。外出後の手洗いうがいが不十分。		トイレや外出後の手洗いうがいの徹底に努める。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫内部や台所周辺など清潔に保ち毎日まな板と布巾の消毒を行い、食材も毎日新鮮な物をご利用者と一緒に行いに出かける様にしている。賞味期限などの確認も行っている。毎月1日は食器棚の掃除・15日は冷蔵庫の掃除を行うよう取り決めがある。また、毎回調理する時には、使用する用具を洗って使うように心がけている。		開封した食材に対して、開封した日付を記入すると共に、早め使用し、置きっ放しにしない。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にはプランターがあり、玄関フローには季節に応じた花を生けている。外にはベンチがあり、時々地域の方が休憩をされていたり、ご利用者と日向ぼっこしたりしている。玄関先の掃除も各階当番制にして行っている。		当番制に限らずに、汚れている時には常に掃除をするよう心がける。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要のない音はなくし、西日など外から不快な光が差し込む場合はカーテンなどで防く配慮を行なっている。リビングには季節感が出るように、季節の花を飾ったりしている。たまに、尿臭などの不快な臭いがある。		トイレ掃除をこまめに行い、芳香剤や消臭剤を置き臭いには継続して気をつけ、換気にも努めていく。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローアにロールカーテンを設置し区切れるようにしているが、それぞれの圧迫感があり場所が狭い。入り口にソファを設置して出来る限り思い思いに過ごせるように工夫している。		この狭さも良いような気がするが、今後も狭いなりに工夫していけないか、考えていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅より、ご本人使い慣れた家具(タンス、鏡台など)持ってきて頂き、ご本人が安心して日々過ごしやすい空間、居心地の良い空間作りに努めている。又、お部屋の模様替え、家具の設置場所などご家族と相談を行い実施している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に換気を行っている。エアコンを使用し温度調節を行い、外気温と大きな差がないようご利用者の状況に応じてこまめに換気を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室には手すりを設置しており、ベランダの入り口にはスロープを作り、ご利用者が安全に歩行が出来るようにしている。また、		ジュータンなどの敷物にも、段差を無くせるよう工夫している。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱している時には話を否定せずゆっくりと聞き、傍にいて見守る。失敗があった時には、その方を傷付けないような言葉かけや誘導を行うようにしている。		混乱している時には、他利用者と離れた場所で話を聞き少しずつ落ち着いてもらうよう心がける。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキには洗濯物を干し、ご利用者と一緒に行うようにしている。屋上には、プランターを置き家庭菜園を行いご利用者と水撒きを行ったり収穫したり、日々成長を楽しみにしている。また、天気の良い日にはバーベキューを行ったり夕涼みなど四季を通して活用している。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

「みんなが集ってよくお話をする。近くの友人がよく集ってくれる。此処に居ると、良く話し合ってくれます。」(4丁目入居者3名の方が話し合って書いて下さいました。スタッフより「個人の希望にあわせての外出や趣味活動(園芸・裁縫・塗り絵)など、その人らしさを引き出せるように力を入れている。また家事全般も協同作業を行い、その中でご利用者同士の関わりが深くなり、信頼関係が築けるように努めている。ご利用者はそれぞれ役割があり、職員間でもその重要性を十分理解しており、出来る限り自立した生活を達成して頂けるよう、全力で支援している。4丁目は狭い空間ではありますが、和気あいあいとした家庭的な雰囲気がある。フロアには必ずご利用者が集っておられ、話をされたり、おちゃしたり。本当の家族ではないけれど、ご利用者同士がお互いを思いやり、心配したり、喜怒哀楽を共にし、本当の家族のようなユニットである。また、ご利用者のご家族が来所された時など、他の利用者の方も皆さんで来訪された方を笑顔で受け入れてお話をされたり、本来のグループホームらしい雰囲気があり、よく笑い、笑顔が絶えない所である。